

# 第97回メーデー大分県中央大会

日時：2026年4月29日(水・祝) 10時00分開会

会場：大分市府内町「トヨタカローラ大分 祝祭の広場」



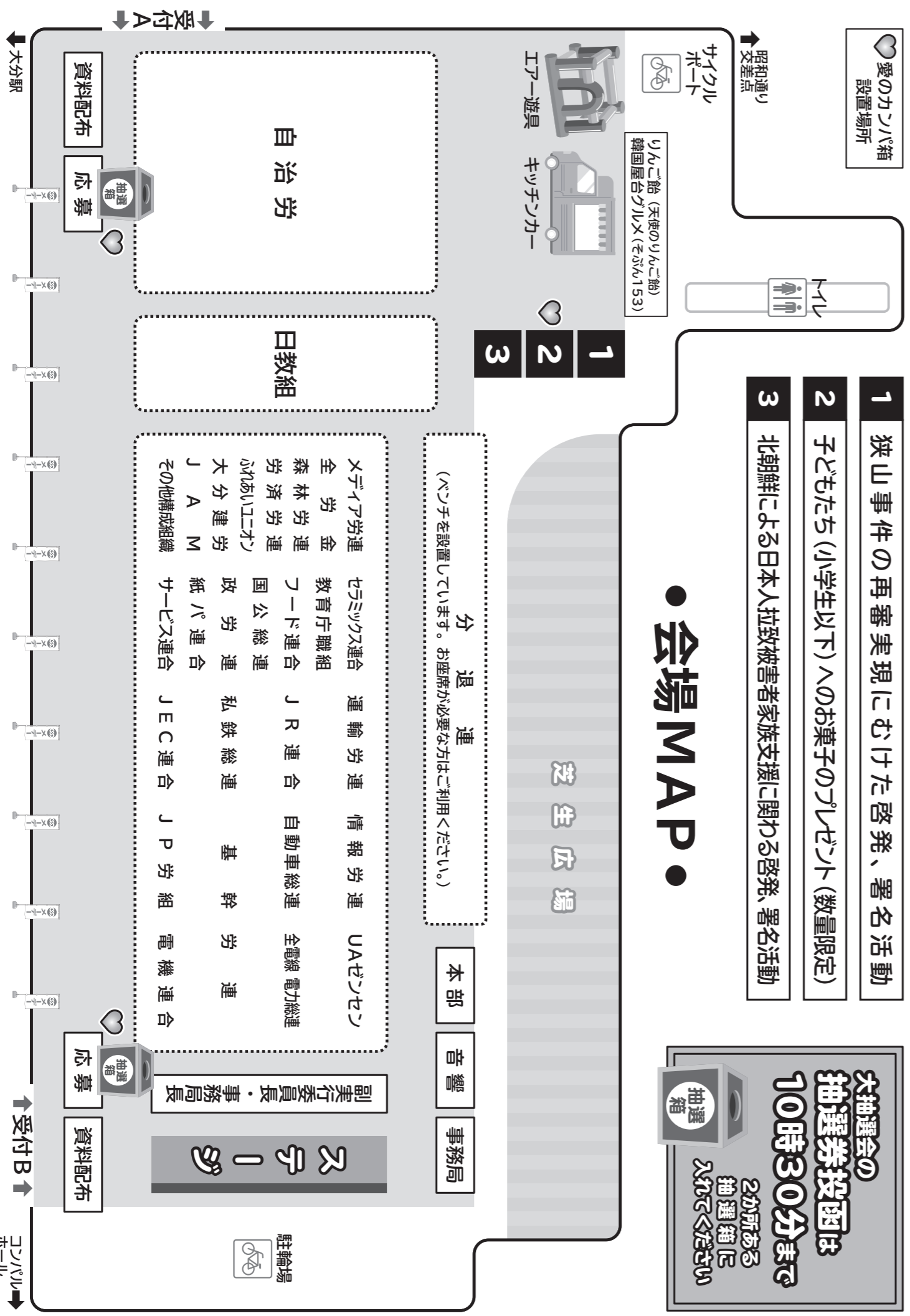
## 式典の部 (10時00分～10時40分終了予定)

1. 開会
2. 実行委員長あいさつ
3. 来賓あいさつ
4. 来賓紹介
5. メーデー宣言採択
6. ガンバロウ三唱
7. 閉会

## 祭典の部 (10時50分～11時30分 終了予定)

1. 大抽選会
- 受付にて配布しています「抽選券」を切り取り、受付に設置しています「抽選箱」へお入れください。
- 締切は  
**10時30分**です
- ※賞品一覧は、別紙をご覧ください。

主催：第97回メーデー大分県中央大会実行委員会 (事務局：大分市中央町4-2-5 ソレイユ6F 連合大分内)



## 第97回メーデー宣言（案）

本日、私たちは第97回メーデー大分県中央大会を開催した。1920年に第1回メーデーを開催して以来、私たちは、労働者の地位や労働条件の向上にとどまらず、人権や労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の実現を訴えてきた。

東日本大震災から15年、熊本地震から10年、能登半島地震から2年が経過した。改めて犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、いまだ避難生活を続けておられる方々に、心よりお見舞いを申し上げる。地震への備えはもとより、激甚化・頻発化する気象災害に対する防災・減災の取り組みを一層強化するとともに、支え合い・助け合いの輪を広げていく。

国際社会では、国連を中心とする秩序や国連憲章が蔑ろにされ、多国間主義や国際協調が揺らぎ、自国の利益だけを優先する動きが強まる中で、対立と分断が進んでいる。ミャンマーやウクライナ、中東をはじめとする各地では紛争や軍拡が続き、民主主義や人権が脅かされる状況も深刻化している。私たちは、「対話による平和と真の民主主義なくして労働運動なし」を深く胸に刻み、核兵器の廃絶と恒久平和の実現をめざし、世界の働く仲間と連帯して平和運動を力強く進めていく。

私たちは、すべての働く者のくらしの向上にこだわり、2026春季生活闘争を展開している。物価高により実質賃金は低迷し、格差も拡大している。労務費を含む適切な価格転嫁と適正取引を実現し、持続的な賃上げと企業規模間、雇用形態間、男女間の格差是正を実現しなければならない。

「働き方改革」の見直しが議論されている。過労死等が依然としてなくなる実態をふまれば、長時間労働の是正、労働時間の上限規制の強化こそが求められている。長時間労働を助長しかねない制度の拡充・緩和は認められない。働く者のための真の働き方改革の実現に向けて、引き続き強力に取り組んでいく。

私たちは、平和と人権が尊重され、多様性を認め合い、すべての働く仲間が笑顔で安心して働き、くらする社会の実現に向け、集団的労使関係を強化・構築するとともに、働く者・生活者を優先する政策の実現を求める。

今こそ、連帯の力によって、誰一人取り残されることのない社会を築いていこう！

対話と連帯で築く、平和で笑顔あふれる未来  
真の働き方改革で、安心してくらする社会を！

以上、ここに宣言する。

2026年4月29日  
第97回メーデー大分県中央大会

## メーデーの 始まり

# 8時間は労働に、8時間は休息に、 そしてあとの8時間は自由な時間のために

メーデーは1886年5月1日、米国の労働者が「8時間は労働に、8時間は休息に、そしてあとの8時間は自由な時間のために」を求めてストライキに立ち上がったのが起源です。当時、米国の労働者は長時間労働と低賃金に苦しめられ、労働時間の短縮は切実な要求であったのです。

これをきっかけに世界の労働者は5月1日を「国際的な団結の日」と定め、1890年5月1日、第1回国際メーデーが多くの国で開催されました。

日本では1920年(大正9年)5月2日、第1回メーデーが東京・上野公園で開催。それ以降、毎年開催されていました。しかし、軍国主義の高まりの中、1936年(昭和11年)の「2.26事件」を契機に、メーデーは全面禁止されました。

第二次世界大戦後、メーデーは労働組合の復活とともに再開。労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、世界の恒久平和の希求に深く貢献し、その役割を果たしてきています。

現在のメーデーは、米国の労働者が労働条件の改善を訴えたその想いを受け継ぎつつ、働く仲間とお互いをねぎらい、讃え合いながら、家族や地域のみなさんにも楽しんでもらえる一大イベントとして全国各地で開催されています。

連合は、5月1日を祝日にするよう求めています。



## 労働者自主福祉運動とは

1949年、戦後直後の深刻な食料危機と生活物資の不足から、生活物資の確保をめざして労働団体や生協などが集まって、現在の中央労福協の前身である「中央物対協(労務者用物資対策中央連絡協議会)」を結成したのが労働者自主福祉運動のはじまりです。

そのほか、銀行からの融資が受けられず、高利の質屋やヤミ金融で苦しんでいた労働者を守るために設立された労働者のための金融機関である「ろうきん(労働金庫)」、事故や災害などで影響を受けた際に協同的に助け合う「こくみん共済coop(全労済)」などが設置され、働く人による「共助」の取り組みを行っています。

## 連合大分 働く仲間の店舗リスト

詳細はホームページをご確認ください。



<http://www.rengo-oita.jp>

連合大分は、組合員が「つくる製品」「提供するサービス」「働くお店(施設)」を相互に利用しあう「連帯購買運動」を推進しています。春季生活闘争で勝ち取った賃上げにより、個人消費の喚起を促し、経済の好循環を実現することはもちろん、働く仲間の絆づくりへの一助となることを期待します。

## 連合 愛のカンパ



### 愛のカンパ金 募集

「連合・愛のカンパ」は、人道主義の立場から「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向け、社会貢献活動として取り組むものであり、NGO・NPO等の事業・プログラムへの支援を行っています。さらに、国内外において大きな自然災害が起きた際にも、「連合・愛のカンパ」より被災救援金を拠出しています。皆さまのご協力をお願い致します。